

自由民主党政務調査会
新型コロナウイルス感染症対策本部・社会保障制度調査会
新型コロナウイルスに関するワクチン対策プロジェクトチーム

1. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の現状

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が 2020 年 1 月 15 日に国内で初めて確認されてから 1 年を経過したが、収束の兆しは見えず、現在も非常事態宣言下にもかかわらず、4 月・8 月のピークを遙かにしのぐ感染者が確認されている。COVID-19 肺炎に対しては、抗炎症薬の 1 つで一定の効果が認められているだけで、多数の薬剤が試みられたものの確かな効果を示した抗ウイルス薬は無く、これまでの国内の死亡数も 5000 人を超えた。さらに、最近では、イギリスで見つかった感染力が強いとされるウイルスの変異が国内でも確認され、急速な感染拡大が懸念されている。

2. COVID-19 ワクチンの効果と安全性、ワクチン戦略の方向性

このような中で、COVID-19 ワクチンが開発され、臨床試験では、メッセンジャーRNA ワクチンでは約 95% の、アデノウイルス・ベクター・ワクチンでは約 62% の発症予防効果が認められた。何れのワクチンも強い免疫誘導効果を示し、免疫応答が減弱する高齢者においても、若年者と同様の高い有効性が認められた。有害事象は高率に認められるものの全て一過性で、入院を要する有害事象の頻度は低く、対照群との差は認められていない。特に、第 3 相臨床試験で接種後に発生した入院を要する COVID-19 症例 50 例のうち、ワクチン接種群は 1 例だけで、顕著な重症化予防効果が認められている。このような科学的知見をふまれば、高率な有害事象や、中長期的な効果と安全性は不明であること、メッセンジャーRNA ワクチンやウイルス・ベクター・ワクチンの投与実績がほとんど無いことなどを考えても、これらのワクチンには、なお接種の利益が認められると考えられる。

これらのワクチンを高齢者や基礎疾患のある人などの重症 COVID-19 のリスクのある人々に接種すれば、COVID-19 は、ほぼ風邪コロナウイルス感染症と同様の、流行しても軽症の感染症となると考えられる。したがって、これらのワクチンを如何に迅速に、リスクの高い人々に接種するかが、平穏な社会生活と活力ある経済を回復するための鍵であり、2021 年前半にこれを達成することが国家の最大の課題である。

3. 本プロジェクトチームの課題と役割

しかし、日本の医療の歴史上、このような大量・短期間のワクチン接種は前例が無い。現在、ワクチンを開発した企業との供給契約はあるものの、①世界的競争の中での早期のワクチンの確保、②超低温保存が必要なメッセンジャーRNAワクチンの迅速な医療機関への配送、③1箱に入った多数のバイアルを各医療機関へ分配する具体的な方法、④既存の医療・保険システムを最大限に利用した可及的迅速な各接種対象者への接種体制の構築、⑤クラスターを回避可能な接種場所と医療スタッフの確保、⑥高率な有害事象の適時・適切な評価と対応のための体制構築など、様々な課題を冷静かつ速やかに解決していかなければならない。

そのため、本プロジェクトチームでは、政府と連携し、徹底して科学的知見に基づき、これらの諸課題に取り組み、早期の COVID-19 ワクチン接種を実現していく。

(以 上)